

北海道PTA連合会**218号**

会報

札幌市中央区北1条西3丁目 S T V 時計台通ビル6階／TEL(011)251-6937 FAX(011)210-0929 <http://www.hokkaidopta.jp>

コミュニケーションの必要性とつながることの大切さを学ぶ

北海道PTA連合会

副会長 谷渕友美

第70回日本PTA北海道ブロック研究大会札幌大会が、開催されました。大会スローガンは、「いまこそつながろう、そして認め合おう」です。4年振りとなる参集型の研究大会に、全道各地から遠くは九州からPTA会員の皆様が札幌に集いました。

私が初めて全道大会に参加をしたのは、昨年の北見大会でした。感染症対策のため、オンライン、ハイブリッド式など遠くてもつながれる良さを教えて頂いた北見大会を経験しました。今回は更に進化したオンライン参加と参集型により一体感とコミュニケーションは楽しい！と改めて感じてくれた札幌大会でした。また、分科会ではオンライン開催での中学生討論会もあり、他の分科会のグループディスカッションも含め白熱した意見交流が出来ました。

意見交流では「コロナ禍で活動が止まったままのPTA」、「業務負担を減らすうちに学校・家庭・地域の関係性が希薄になり、どうするか手探りしているPTA」、「今までと変わらず地域に根差した活動をしているPTA」、「何でも難しく考えず楽しんで家庭に寄り添うPTA活動をする私」。どれも共感出来て、ヒントがあり学びがあります。これこそが、つながり認め合うことだと実感しました。中野会長、五十嵐実行委員長、札幌大会関係者の皆様、関わったPTAの全ての皆様に心より感謝申し上げます。次年度は石狩管内・千歳大会です。

子どもを取り巻く環境は常に変化をしています。認め合いながら大人も学び進化をしていかなければいけません。しかし理想だけ語っていても求められている状況と差が出来てしまえば意味がありません。その差がないように、PTA活動に力を注いでいます。私が会長を務めている長沼小学校の取り組みを紹介します。長沼町はスローフード宣言をしている町ですが食に対して大きな関心がある方とあまりそうでない方の差は大きいです。今後も、スローフード理念に基づいて「食」に対する理解を深めていくことが大切だと思っています。

食育を学んでいない、親世代はどうしたら良いのか分からないのが現実です。学校給食を通じて子どもが食べているみそ汁の地産地消を知るイベント。その名も『みそ汁サミット』（詳細は北海道PTA連合会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください）。何事もPTA本部役員だけでは行き詰りますので、一般会員の皆さん、小学生のお子さんから実行委員を募り開催しています。その都度興味のある方々が運営するため、「面白いことやろうよ！」が合言葉。そんな大人の姿を見て皆が集う。子どもたちを見守り家庭と学校に寄り添っていきます。

今日も校門前で、「いってらっしゃい！」。

第70回日本PTA北海道ブロック研究大会札幌大会

10月21日（土）から2日間、札幌市で会場・オンライン（特1・特2分科会）のハイブリッド形式で、札幌市PTAの心温まるおもてなしと準備のもと開催されました。

第1日目の開会式・分科会・情報交換会はロイトン札幌を会場として、第2日目のアトラクション・全体会・記念講演・閉会行事はカナモトホールを会場に開催され、会場、オンライン合わせて約1,000人が参加しました。北海道札幌国際情報高等学校吹奏楽部による演奏とダンスと歌で会場が盛り上りました。その後、中野大会長の挨拶、ご来賓を代表して秋元札幌市長と日Pの宿南副会長から祝辞をいただきました。記念講演では、「明日の学び～これから歩み方」と題し「未来のテレビを考える会」代表理事の西田二郎氏と藤村忠寿氏が講師を務めました。「ダウンタウンDX」「水曜どうでしょう」などのプロデューサーとして活動されている中でのエピソードから子どもにとって大事な学びについて、お二人の掛け合いでユーモアを交えて語られました。



閉会行事では、大会旗が五十嵐実行委員長から道ブロ協議会へ返還され、後藤副大会長より次期「石狩管内・千歳大会」の太田実行委員長へと引き継がれ、多くの会員の皆様の大会参加を期待し、次年度の石狩管内・千歳大会で再会することを呼びかけました。

札幌大会分科会提言概要

※各地区提言を事務局がまとめました

第1分科会

組織・運営「コロナ禍で見直したPTA活動の実例から学ぶ組織運営」

提言1 「持続可能な「PTCA活動」を目指して～思いを形にする地域の力～」

胆振西部PTA連合会（壮瞥町立壮瞥中学校PTA）

壮瞥中PTAの事業として地域文化交流会「後夜祭」を開催した。持続可能な取組となることを念頭に提言する。

1. 学校との目的の共有～各種行事等が中止となる中、役員会で生徒と保護者、学校、地域が特別な時間を共有し生徒一人一人が郷土「壮瞥」を感じることができ、思い出となる時間を提供したいと考え、学校に伝え、取組がスタートした。
2. 新事業の企画・実施に当たって～コロナ禍での新事業だったので、役員内でのコンセプトの理解と徹底が重要である。また、既存のメンバーができる方法、できる範囲を基本に行うことを心掛けた。
3. 地域の力と学校をつなぐ～地域の理解と協力があつてこそ成功した。今後、新たに何か始めるときは旗振り役が必要である。実施はむずかしいかもしれないが、子どもたちへの愛情、学校と地域の理解を土台に会員の結束力と行動力があってこそ実現だと思う。

提言2 「withコロナの時代にPTAができること」

根室地方PTA連合会（中標津町立中標津東小学校PTA）

1. Before コロナのPTA活動～家庭数の減少に伴い、PTAの意義と役割を見直し、活動内容について話し合っていた。
2. 学校運営協議会と地域学校協働本部の設置～H30年度に学校運営協議会「東っ子サポーター」を導入し、R2年地域学校協働本部で地域コーディネーターが置かれた。
3. 緊急事態宣言からコロナ禍へ～R2年緊急事態宣言下、協議会で学校と家庭・地域をつなぐ基本を示し、活動休止、外部以来、有志募集、新規事業等に分けた。また、ZOOMでの役員会等の開催を行った。
4. After コロナに向けての整理～コロナ禍の活動をもとにR5年に2つの委員会を休止し、それ以外は人材育成が必要と判断し、コロナ前に戻した。必要に応じサポーターの募集体制を構築した。コロナ禍での活動は歴代PTAの先輩方が作られた先生方との関係性や常に変化させていく努力による。学校が住民同士の多世代交流と親睦を図ることが子どもたちのより良い成長につながることを願っている。



第2分科会**家庭教育「子どもに寄り添い、認め合い、絆を深める教育環境や会話力と学び」****提言1 「札幌市西区PTA連合会親子ふれあい事業「コロナ禍でチャレンジ親子の絆」」**

札幌市西区PTA連合会 札幌市立手稲宮丘小学校PTA

西区PTA連のコロナ禍での親子ふれあい事業の新スタイルとして「エントリー式コロナ禍でチャレンジ親子の絆」を企画実施したことについて提言する。

1. エントリー式コロナ禍でチャレンジ親子の絆

親1人、子1人の単位で3つのコース（野外活動・屋内活動・施設見学）参加者を募集し、内容は親子で個別に考え、自発的で多様な学びを設定した。報告書の提出や実施後のアンケート回収も行った。

2. 優秀作品写真集の作成と西区内全会員への配付

この取組を手がかりに親子で出かけ挑戦するヒントになることを願って作成した。

3. この事業の評価と今後

密を避けるという意味からも個別に期日を決めて実践するので変更が可能であり、必ずやれた。

提言2 「会話を豊かにするコーチング」コーチング普及舎U-Eden代表

日本メンターコーチ協会認定：メンターコーチ & メンターコーチファシリテーター

JADP認定：チャイルドコーチングアドバイザー

日本の子どもたちは自己肯定感や有用感が低いと言われている。コーチングの意味を知ることで、相手の気づきややる気、行動、自己肯定感を引き出していく。教えることより相手の気づきを促すことで、成果をもたらす。子どもたちの可能性を引き出すためにもコーチングの実践が広がることを願っている。

**第3分科会****学校支援 「学校・子ども・保護者がつながりあえる学校支援のあり方」****提言1 「学校支援をサポートできる区PTAを目指して」**

札幌市中央区PTA連合会 札幌市立円山小学校PTA

1. 情報共有促進PJ（プロジェクト）のねらい・概要

コロナ禍で見えにくくなった各単Pの状況のアンケート実施と他校の情報共有

2. アンケートからみえてきたものと今後に向けて

スリム化・効率化で参加しやすさを求めて多数の学校で持続可能な体制、できる活動を模索している。

また、各校で学校支援に取り組んでいる。（学習・環境・安全確保・行事等）

今後、情報共有が学校支援の充実へつながると考えている。

提言2 「地域に応じた学校支援のあり方」札幌市中央区PTA連合会

札幌市立資生館小学校保護者と教職員の会

札幌市立盤渓小学校保護者と先生の会

1. 資生館小学校

PTA活動をボランティア活動に移行（クラスサポーター・資源回収ボラ・子どもの安全見守り隊他）

土曜参観後のPTA行事「資生館ふれあいフェスティバル」～児童、保護者、教職員の交流の場

子どもたちの健やかな成長を見守り育てていけるよう時代と保護者のニーズに合ったPTA活動を進める。

2. 盤渓小学校

半数の保護者が直接PTAに関わり、地域との連携で礼儀やルールを学び、仲間を思いやる放課後スキーを実施。誰にでも出来るPTAを目指し、ハンドブックの制作等を開始。ICTを活用した新たな仕組みを取り入れ、時間短縮を図る。子どもたちの笑顔のために次年度につなげる活動を大事にしていきたい。



第4分科会**地域連携「子育てを支える学校と地域のつながり」****提言1 「コロナ禍でも子どもたちに笑顔を」札幌市白石区PTA連合会****札幌市立北都小学校保護者と先生の会**

「子どもたちのために手をつなぐPTA」を活動テーマにし学校・家庭・地域の三者が一体となって進めていくPTAを目指している。活動例として、「街路樹花壇活動～毎年6月に子どもたちの登下校の街路樹に植花を行い、世話をされている。8月には地域の少年団の協力ももらっている。」「七夕の集い～地区的夏祭りだが、飾り作りや運営に協力している。」「開放図書館の地域活用」「夏休みイベント：逃走中～コロナ禍でも子どもたちに笑顔をということで、夏休み中にグランドを使い、低中高に分け全校大鬼ごっこ大会を開催した。」コロナ禍でもあきらめず、できることを一生懸命摸索しながら活動してきた。子どもたちの笑顔のために手を取り合っている姿を見せられるよう今後も活動していきたい。

提言2 「私たちが思い描く学校・地域の連携とは」札幌市白石区PTA連合会**札幌市立柏丘中学校父母と先生の会
札幌市立白石中学校PTA****1. 柏丘中学校**

コロナ禍でも根気強く標準服リサイクル販売会を開催した。学校祭での友愛セルも実施した。

PTAジャンパーを着て神社祭の見回りを行ったり、地域の「おやじの会」の方々による合格祈願雪像の制作をしていただいたりと、地域の方々との心の繋がりを感じる機会となった。

2. 白石中学校

コロナ禍で学校行事や部活動が制限される中、働く大人（職業人）1人に生徒10人以下を基本に車座で将来の職業に憧れをいだいてほしいという願いもありしごとの「ゆめ時間」をPTA役員で企画した。

多くの職業人、子どもたちの参加があり、実は自分のごく身近にいる職業人の「ゆめ」に触れ、大人にとってもPTAにとって有意義な物になった。

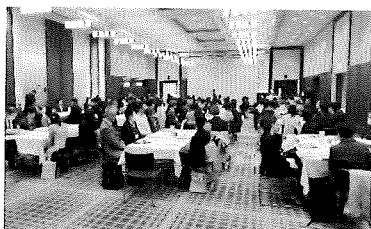
**第5分科会****食育・情報「生きる力をはぐくむ食育とICT活用力」****提言1 「十勝管内各地区の食育について」十勝管内PTA連合会 足寄町立足寄小学校PTA**

1. 十勝の食育の特徴～十勝は農業・畜産業が盛んな地域で、食育の中で地域の資源を活用した学習や体験活動を展開できる。学校と地域の連携のもとに、地域全体で食育を推進する協力体制が整っている。
2. 各校の具体的な取組～給食レシピで料理教室、十勝産の食材を使った親子でのピザ作り、地域と共に体験活動として3世代交流による稲作教育、給食試食会等、取り組んでいる。
3. 今後、PTAとして食育に関わるために、学校や地域と連携していきたい。

提言2 「ICTの利活用と家庭教育のあり方」小樽市PTA連合会 小樽市立高島小学校PTA

1. 小樽スマート7～H28年に市教委と市P連でインターネットの利用について児童生徒・保護者が、「自分たちで決めたルールだからみんなで守っていこう」とした。R4年に時代に即すよう一部改定された。
2. 高島小スマート1（ONE）～小樽スマート7の中でも特にSNSに関わるトラブルの未然防止するためのもの。
3. 1人1台端末を活用した取組～「生活習慣スケジュール表」を使い、子どもたちの時間の使い方を端末に入力することにより、主体的に生活習慣の改善を図ったり、保護者や担任が子どもの生活習慣を把握できる。
4. 安心安全メールによる保護者・地域との連携～緊急な情報や学校だより等の情報や連絡を送信している。
5. 高島小キッズ応援団～子どもたちの成長を地域や家庭とも連携して手助けしていく取組。

今後も学校と保護者と地域の繋がりを大切にし、子どもたちの成長のために連携、協力していく。



特別第1分科会**中学生討論会**

分科会テーマ SNSの使い方から子どもたちの今を知る

「SNSに振り回されず、自分たちの幸せのために使いこなせるように」

会場にて行われる討論会をZOOMで視聴

コーディネーター 札幌国際大学 全学共通教育部准教授 安井 政樹 氏

1. 中学生の利用の実態～R4年度内閣府の調査によると、中学生の利用内容は動画・検索・ゲームが多く、勉強・投稿はその次になっている。利用時間は平均約4時間半であり、インターネットを使ったコミュニケーションを使っている時間は約50分である。
2. 中学生の可処分時間～1日24時間のうち、自由に使える時間はどれだけあるか。可処分時間を増やすために睡眠時間が減り、授業中眠くなるという悪循環が問題視され、メディアバランスを確保のかが重要である。
3. フォローとブロック、エコチェンバーやフィルターバブル～SNSはオープン型とクローズ型に大別され、この2つを分けて考えることが重要である。
4. SNSは悪なのか？禁止ではなく使い方を学ぶ～スマホに支配されず、自分のペースを保てるかが重要である。禁止するのではなく、闇バイトや悪質な情報から身を守れる教育を考えていくことが重要である。

**特別第2分科会****地域課題**

分科会テーマ 楽しくつながる令和のPTA 会場にて行われる提言をZOOMで視聴

提言1 「楽しくつながる活動とともに」札幌市東区PTA連合会 札幌市立札苗北小学校PTA

1. オンライン参観日学習サポーター～オンライン配信で参観日を行った際にその機械操作と撮影をする役割を「学習サポーター」と名付け、お互いが協力し、認証作業と撮影とを交代しながら行うことで我が子の様子もしっかりと見ることができ、心の通い合える活動となった。
2. 札苗北ふれあイスフェスティバル～コロナ禍でほとんどのPTA活動が制限される中、3年ぶりに開催した。PTA役員・先生方・おやじの会で協議を重ね、感染症対策をしっかりとを行い、予想以上の参観者でボランティアスタッフも募集して実施し、交流を深めた。

家庭・学校・地域が連携していくことが大切であり、子どもたちの笑顔と地域に根差す、地域に居場所がある子どもの姿を楽しみに進めていきたい。

提言2 「地域・学校・保護者が一体となって、子どもたちを見守る活動」

札幌市東区PTA連合会 札幌市立義務教育学校福移学園PTA

1. 子どもたちを見守るために～札幌市の小規模特認校であるため、通学距離が長く、時間のかかる児童生徒もいる。ほとんどの児童生徒が公共交通機関を利用するため、公共のマナーや社会性を学ぶ大切な時間となっている。また、登下校時の安全確保のため、PTA主体による「朝の見守り活動」を行っている。保護者だけではなく、地域の方々・スクールガード・スクールガードリーダー・教職員とたくさんの大人達が見守りを行っている。
2. 一昨年度からは「花壇活動」の活動を再開し、感染症対策を講じた上で「学級レク」が復活し、5類移行を受けて「夏の親子レク」も復活した。時代の流れに合わせ、保護者の負担にならずに学校と保護者、保護者と保護者がつながることができる活動に取り組んでいく。



第71回日本PTA全国研究大会広島大会 報告

～大会スローガン 変化の時代に向か、PTA自身が学びの変革を！～

【全体会 記念講演・記念演奏会】

8月26日全体会が広島県立総合体育館「広島グリーンアリーナ」にて、約7,000人が参加する中、アトラクション・開会行事・記念講演・閉会行事の4部構成で開催されました。アトラクションでは「広島ジュニアマリンバアンサンブル」の子どもたちによる参加者を魅了するような華麗な合奏が行われ、全体会参加者の期待感は醸成されていきました。開会行事では、日本PTA全国協議会後藤会長の挨拶をはじめ、伊藤孝江文部科学大臣政務官や、広島県副知事による祝辞を頂戴し、多くの方々の祝電が披露され全国大会の規模の大きさやPTAに対する関係各所からの期待を改めて感じた事ができました。記念講



演は人工知能研究者で「妻のトリセツ」等の著者でもある黒川伊保子氏による「心のトリセツ」と題した、「人間の脳を電子装置と見た場合にどのような装置なのか」の観点からAIが発達していく現代において、子どもたちには「発想力や対話力」が求められる事等、興味深い内容を飽きさせない軽快なトークでお話し頂きました。その後、閉会行事では謝辞、次回開催地である川崎市のPRが行われ閉会となりました。

【報告：北海道PTA連合会副会長 若林 徹】

【第3分科会】「地域連携」

〈基調講演〉地域とともにある学校～シビックプライドによる架橋～ 山川 肖美 氏
『地域をよりよくするために貢献しようとする心意気』

コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を進めていくなかで、地域との連携は欠かせないもの。保護者や地域を含めて、学校やPTAに協力したいと考えている人は一定数必ずいるはずで、人の繋がり広がり輪がどんどん大きくなっていく。

学校、保護者、地域が手を組んで子どもたちがより良い環境で育つ、それには学校がより良く機能するために、周りが手を組んで仲良く進めていく必要があります。

ゴールや正解はなく、常にチャレンジして前を向いていく事が大切なのかなと。子どもたちが笑顔で学校に通えるためには、学校の先生方々、保護者地域の方々が笑顔で見守り、優しく背中をおしてあげないとならないと思います。

パネルディスカッションの方では、倉吉市立関金小学校の「牛飼い体験～生命の大切さを学ぶ場～」が、とても印象的でした。



【報告：北海道PTA連合会副会長 廣瀬 堅一】

各種表彰 「おめでとうございます。」

(敬称略)

□ 令和5年度 三行詩コンクール (掲載順は道P連の地区順)

今年の三行詩コンクールには、全道から小学生の部に1,081点、中学生の部に682点、一般の部に46点の合計1,809点の作品応募がありました。各地区PTA連合会で審査した後、北海道PTA連合会に推薦されてきた114点の作品を、北海道PTA連合会の役員・教師代表委員で構成する審査委員会で審査をし、各部門の優秀作品、日本PTA全国協議会に推薦する作品等を選考しました。日本PTA全国協議会には、下線の方々の作品が選考されました。

○小学校低学年の部	林 愛 真 (石狩市立紅南小) 坂 見 風 羽 (北斗市立谷川小) 晴 山 律 希 (浦河町立浦河小)	五十嵐 琴 律 (中頓別町立中頓別小) 三 好 愛 莉 (浦河町立浦河小)
○小学校中学年の部	高 木 千 遙 (北広島市立双葉小) 上 山 あかり (上富良野町立上富良野小)	太 田 雲 海 (中富良野町立中富良野小) 濱 岸 大 葵 (稚内市立稚内東小)
○小学校高学年の部	海馬澤 みのり (日高町立厚賀小) 松 井 優乃佳 (千歳市立千歳第二小) 遠 藤 桃 芭 (旭川市立向陵小)	大 宮 雄一朗 (石狩市立生振小) 徳 田 心 海 (稚内市立大岬小)
○中学生の部	佐々木 悠 衣 (八雲町立八雲小) 加 藤 夢 愛 (石狩市立厚田学園) 高 颯 泽 (小樽市立潮見台中)	中 山 涼 星 (北広島市立西部中) 大 野 由 愛 (南富良野町立南富良野中)
○一般の部	猪 口 紗 那 (根室市立光洋中) 山 上 律 子 (恵庭市立島松小) 村 井 郁 恵 (北広島市立西の里小)	佐 藤 尚 子 (北広島市立大曲中) 小 林 さち子 (旭川市立光陽中)
	田 中 真 記 (池田町立池田中)	

※なお、今年度は日Pでの受賞はありませんでした。

□ 北海道PTA連合会会長表彰 (下線のPTA、個人の方々が日Pへ推薦され、日P会長表彰も受賞されました。)

〈団体の部〉・・・6PTA

- 稚内市立潮見が丘小学校PTA (稚内市連合PTA)
- 利尻町立利尻中学校PTA (宗谷管内PTA連合会)
- 函館市立東山小学校PTA (函館市PTA連合会)
- 岩見沢市立美園小学校PTA (南空知PTA連合会)
- 西興部村立西興部小中学校PTA (オホーツク西部地区PTA連合会)
- 帶広市立南町中学校PTA (帶広市PTA連合会)

〈個人の部〉・・・4名

- 菊 川 哲 平 (上川南部PTA連合会)
- 堀 江 裕 樹 (旭川市PTA連合会)
- 舛 田 那由他 (胆振東部PTA連合会)
- 吉 田 哲 (オホーツク中部地区PTA連合会)

□ 第45回全国小・中学校PTA広報紙コンクール入賞

- <文部科学大臣賞> 函館市立昭和小学校PTA 「One for all All for one」
- <日本教育新聞社社長賞> 岩見沢市立緑中学校PTA 「みどり」

□ 令和5年度「少年の主張」全道大会

- <優秀賞> (北海道PTA連合会会長賞) 内崎 いおり (岩見沢市立明成中学校)

□ 第69回青少年読書感想文全道コンクール入賞

- <北海道PTA連合会会長賞> 横澤 弦 (旭川市立啓明小学校)

□ 第67回全道学校書道展入賞

- <北海道PTA連合会会長賞> 札幌市立札幌開成中等教育学校 1年 岡崎 聖朋

北海道PTA安全互助会制度の補償内容について

■以下の事故の場合に見舞金が出ます。事故が発生したら、速やかに事故報告をしましょう。

<園児・児童・生徒（学校管理下外）傷害補償>学校の管理下外でのケガおよび死亡の見舞金

- ・登下校中やご自宅でのケガ
- ・スポーツ（少年団活動を含む）でのケガ
- ・自転車で転倒した際のケガ
- ・授業のない日の部活動中のケガ

※園児・児童・生徒傷害補償の場合は、学校管理下外での事故に限ります

<PTA（活動中）傷害補償>PTA主催行事で起きたケガおよび死亡の見舞金

- ・スポーツ行事や学年、学級レクでのケガ
- ・研修活動中のケガ

<賠償責任補償（PTA）>PTA活動中の賠償責任を補償します

- ・PTA主催のお祭りで、PTA役員の誘導ミスにより来場者がケガをした

<賠償責任補償（PTA+子ども24時間）>園児・児童・生徒の賠償責任を24時間補償します

- ・児童が自転車で通行人に衝突し、通行人がケガをした

■未加入校はぜひご加入をお願いします。毎月1日を始期としてご加入いただけます。

子どもたちの学校以外での活動やPTA行事に安心して参加できるように、補償内容等をご理解のうえ、ぜひご加入いただくようお願いいたします。

<会費>

【園児・児童・生徒（学校管理下外）傷害補償】	被保険者1人につき	400円（1年間）
------------------------	-----------	-----------

【PTA（活動中）傷害補償】	1世帯につき	195円（1年間）
----------------	--------	-----------

【賠償責任補償（PTA）】	被保険者1人につき	18円（1年間）
---------------	-----------	----------

【賠償責任補償（PTA+子ども24時間）】	被保険者1人につき	400円（1年間）
-----------------------	-----------	-----------

新たに加入を希望される場合は、北海道PTA安全互助会までご連絡ください（☎ 011-221-7680）

北海道PTA連合会
令和6年度

小・中学生総合補償制度

(団体総合生活保険)

子どもたちの笑顔あふれる活発な日常をお守りする「もしも」の際の「備え」です！

- ◆各学校でご加入いただく北海道PTA安全互助会制度の上乗せ補償として、各ご家庭で任意加入いただける制度をご用意しています。
- ◆学校内外を問わず、様々な危険から24時間、お子さまをお守りします。
- ◆本制度は年1度の募集で、募集期間は令和6年4月1日～同年5月25日までです。
令和6年4月25日までの申込の場合 保険期間：令和6年5月1日午後4時～翌年4月1日午後4時
令和6年5月25日までの申込の場合 保険期間：令和6年6月1日午後4時～翌年4月1日午後4時
- ◆詳細な補償内容や申込手続き方法は、毎年4月に各学校で配布されるパンフレットをご確認下さい。

【お問い合わせ先】

株式会社東京海上日動パートナーズ北海道 札幌支店
札幌市中央区北1条西3丁目 STV 時計台通ビル6F
☎ 011-232-0701（受付時間／平日 9時～17時）

【引受保険会社（担当課）】

東京海上日動火災保険株式会社札幌支店金融公務課
札幌市中央区大通西3-7 北洋大通センター17階
☎ 011-271-7285（受付時間／平日 9時～17時）
令和5年10月作成 23TC-004780